



# 石岡地域市民医療シンポジウム

城西大学経営学部教授 伊関友伸

## 地域医療に係る対策を検討する 専門委員会の設置

2020年2月9日、茨城県石岡市の地域市民医療シンポジウムで講演をした。石岡市は人口約7万3000人。地域医療に関しては、石岡市医師会管内である石岡市（石岡地区および八郷地区）、かすみがうら市（千代田地区のみ）、小美玉市（玉里地区のみ）を合わせて石岡地域と呼んでいる。

石岡市は、二次医療圏としては土浦医療圏に属する。土浦医療圏（人口約25万人）には、拠点病院として総合病院土浦協同病院（800床、医師数238人）があるものの、石岡市内の主な病院である地域医療振興協会が運営する石岡第一病院（126床、医師数8人）、石岡市医師会病院（120床、医師数4人）、山王台病院（52床、医師数7人）などでは、病床の規模も医師数も足りない状況にあった。特に、医師会病院は、医師やコメ

ディカル（医療従事者）不足により、一部休床を余儀なくされている。

石岡地域3市は、地域で出産ができる産婦人科がなくなったことを契機に、2018年6月に「石岡地域市民医療懇談会」を開催した。懇談会は合計3回開催され、議論の中で「緊急診療（夜間休日診療）の拡充」「二次救急の充実」「地元産科・小児科を」などの意見があり、医師不足をはじめとする地域医療の課題が明らかになった。

2019年6月には、3市の市長と石岡市医師会会長による任意の会合である「石岡地方医療対策カンファレンス」が開催され、今後目指すべき医療体制について専門的な検討が必要との合意がなされた。その合意を受けて、同年8月には「地域医療に係る対策を検討する専門委員会」が設置され、筆者は委員として参画することとなった。専門委員会では4回にわたり議論が行われた。委員会の意見を踏まえ、2020年1月に石岡地域3市

による「石岡地域医療計画——石岡地域に必要な医療体制について」が策定された。

## 石岡地域医療計画の策定

石岡地域医療計画は、まず石岡地域の医療の課題として「医師の高齢化により緊急診療の継続が困難」「夜間対応が可能な医師の確保が困難」「入院は5割超が石岡地域から流出しており、地域内での受け入れが不十分」「二次救急の受け入れが十分にできていない」「分娩できる医療機関がない」「小児救急を市内で受け入れられる体制がない」などについて指摘。

それらを解決するため、計画では、優先的に実施する対策として「病院の再編統合（公立化）と病床の再配分」を行うこととした。「病院の再編統合（公立化）」は、市の主導により石岡第一病院と石岡市医師会病院の再編統合を行い、新しくできる病院（199床）の自治体病院化を図る。具体的な新病院構想では、

①石岡第一病院の建物を自治体病院化して、増築する。②運営は、地域医療振興協会が指

定管理者制度により医療提供を行う。③自治

体病院化と病床数の拡大により、研修を充実

させ、若手の医師が勤務する病院にする。

④休日夜間緊急診療を継続させ、将来にわた

り持続可能な石岡地域の医療体制を確保する

ことを目指す。⑤自治体病院の設置に当たっ

ては、石岡市医師会関係者も参加する運営評

価委員会を設置し、定期的に運営状況の確認

を行う。⑥病院を運営するために指定管理者

に支払う費用は、地方交付税の措置額の範囲

内に収める、というものである。また、病床

が不足している山王台病院にも、40床を配分

する。このような病院の再編統合を行うこと

で、病床の特例制度として病床配分を行い、

地域全体の医療資源の有効活用につなげる計

画だ。

### 意見発表会

### (わたしが考える理想の地域医療)

二つの民間病院を再編統合して自治体病院化することは、大きな政策転換であり、地域住民や地方議会における納得を得ることが重要となる。特に、病院が廃止される医師会病院周辺の住民にとっては不安が存在する。そこで、住民の不安解消と理解深長を目的に、2月9日に地域市民医療シンポジウムを開催

することとした。

当日は、約250人の市民が参加し、最初

に行政から「地域医療計画について」の説明、

第一部として「意見発表会(わたしが考える理

想の地域医療)」、第二部として講演会「地域

に医療を残すために」が行われた。第二部の

講演は筆者が行った。

今回のシンポジウムの目玉は、第一部の意

見発表会であった。公募に申し込んだ市民が

1人当たり3分間、「石岡地域に必要な医療

体制について」をテーマに、壇上で7組8人

の市民が自由に発言した。今泉文彦石岡市長

と筆者はステージ上で意見を聞いた。

意見は、まず、妊婦の方による早期の産

科医療再開への希望が語られた。さらに、

住民の石岡市医師会病院への想いとして、

医師会病院には送迎の車を出してもらって

いて助かっていること。新しい地域医療計

画では「誰ひとり取り残されない体制づくり

をするため」とあるが、アクセスが悪くなり

矛盾していないか。公立病院を作るとい

う案は唐突すぎて、正直大丈夫なのか不安が

ある。公立病院になった場合、医師や看護

師の確保ができるのか、などの意見が出さ

れた。

さらに、医師会関係者や医師会病院の院

長から、石岡地域の医療体制の置かれた厳

しさを、内科医師の退職が相次ぎ病棟を閉

鎖しなければならぬこと、病院の経営状

況が非常に厳しくなってきたことの報

告があった。

### 筆者プロフィール

#### 伊関友伸 (いせき ともとし)

1987年埼玉県入庁、県民総務課、大利根町企画財政課長、県立病院課、社会福祉課、精神保健総合センターなどを経て、2004年城西大学経営学部准教授、2011年4月同教授。研究テーマは、行政評価、自治体病院の経営、保健・医療・福祉のマネジメント。総務省公立病院に関する財政措置のあり方等検討委員会など、数多くの国・地方自治体の委員等を務める。著書に「まちに病院を!」(岩波ブックレット)「自治体病院の歴史 住民医療の歩みとこれから」(三輪書店)などがある。

感動した。全国に誇れるモデル事例の一つであると考え。

タイトルの「アスクレピオスの杖」とは、ギリシア神話に登場する名医アスクレピオスの持っていた蛇(クシヘビ)の巻きついた杖。医療・医学の象徴として世界的に広く用いられているシンボルマークである。